第44回地球の子ども通信国際交流事業
The 44th CCE International Exchange Project
「ラオスの子ども達による仙台10日間ホームステイプログラム」
“Sendai Home-stay Programme by the Students of Laos 2014”

事　業　報　告　書

10日間プログラム
10-days home-stay programme

28 Feb. 2014～9 Mar. 2014

主催　：　地球の子ども通信（ＣＣＥ）
Organizer　：　Children's Communication on Earth

後援 Supporters	：駐日ラオス人民民主共和国大使館	Embassy of the Lao People's Democratic Republic in Japan
	宮城県	Miyagi Prefecture
	仙台市	Sendai City
	仙台市教育委員会	Sendai City Education Committee
	(公財)宮城県国際化協会	Miyagi International Association
	(公財)仙台国際交流協会	Sendai International Relations Association
	NHK仙台	Japan Broadcasting Corporation Sendai Station (*)
	河北新報社	Kahoku Press (*)
	朝日新聞仙台総局	Asahi Press Sendai Branch Office
	TBC東北放送	Tohoku Broadcasting Corporation
助成 Financial supporters	：(公財)未来の東北博覧会記念国際交流基	Tohoku Exposition Memorial International Exchange fund

第 44 回地球の子ども通信国際交流事業
「ラオスの子ども達による仙台 10 日間ホームステイプログラム」

成　　果

第44回地球の子ども通信国際交流事業「ラオスの子ども達による仙台10日間ホームステイプログラム」が終了した。

ラオスの子ども達との交流事業は2006年から始まり今回で5回目となるが、ラオスの子ども達単独事業は初めてである。これまでは他の国の子ども達も含めた“地球の子ども通信国際子ども会議プログラム”参加がメインだった。

3．11の東日本大震災から3年が経過し、これまでの事業に参加していたシンガポール、香港など、福島原発の放射能汚染を憂慮して宮城県仙台市でのプログラムをしばらく見合わせたいとの申し出もある中で、震災の年から今回まで積極的にホームステイ事業に関わり震災後の復興の様子を体験的に学びながら、子ども達同志の異文化交流、友情を深め合ってきた。

今回のプログラムは ラオスの小学生、中学生合わせて10名と引率者3名の少ないグループ構成だったが故に、落ち着いた動きの中で日本の生活体験が出来たと感じた。

知事表敬訪問を始め、学校訪問、被災地松島訪問、日本赤十字社東北ブロック血液センター見学、松森工場ごみ処理施設見学など行った。限られた日程の中で、ラオスでは得られない興味深い体験もできた。 松島訪問では松島水族館での津波災害の様子を通して、当時の被害状況と松島湾の地形関係をもとに、その影響とこれまでの復興について勉強会をもった。魚たちをどう守ったかの話は、子ども達の興味を引いた。又、日本赤十字社見学では、災害時の救援活動や血液センターの役割など、命につながる大切な事柄について学ぶ機会ともなった。ラオスの子ども達は、いずれの場所でも積極的に質問し、意欲的に知識を得ようとする姿勢は素晴らしいものがあった。

10日間を共にしたホストファミリーとの生活は、大変楽しい時間となった。ラオスの子ども達は食事の好き嫌いがなく、野菜もよく食べホストファミリーを安心させた。興味深かったのは言葉の問題だった。約、半数の子ども達が英語が話せなかった。ホストファミリーはラオス語が理解できない。その結果、ラオスの子ども達は沢山の日本語を覚えることが出来た。これは、これまでの交流事業では見られなかった発見である。共通語としての英語が使えない時に得られた貴重な機会となり異文化共通理解の一歩ともなった。

ラオスの子ども達は、次回のホームステイに向けて沢山の提案をして帰国した。中でも学校生活、授業体験を増やして欲しいこと、もっと日本の子ども達と時間を共有したい、そのための方法を考えて欲しい、また日本の文化、特に歴史ある建築物やお寺などもっと知りたい等々である

ある男子中学生徒は、まとめの中で、「今回のプログラムは自分自身の世界観を拡げた。この体験から得た様々な知識と感動をいつも携えて成長していきたいと思っている。ホストファミリーに感謝すると共に、地球の子ども通信事業は特別なプログラムと感じている」と結んでいた。

宮城県知事表敬訪問の際、ラオスの子ども達が質問をした。「これから宮城県の子ども達がラオスに行って、交流することは可能ですか？」「宮城県の子ども達に、どのような大人になって欲しいですか？」知事の代理で山崎敏幸国際経済交流課長が答えを述べられた。「出来ますよ。そして、出会った日本人にラオスは良い所だよと伝え、ラオスにおいでよと伝えて欲しい」「自分の周りの人々を大切にし、自分の希望することをしっかりやっていく事が幸せなことで、そのような大人になって欲しい。」と。

東日本大震災以後、子ども達の国際交流事業に与える影響も日々現実味を帯びてきていると実感している。日本の子ども達の派遣事業はこれまでの様に計画可能であるが、受け入れ事業は難しい状況になってきている。しかし、子ども達の友情と異文化交流を育むためには、相互交流が大切だと考えている。この地球に住む私達だからである。ホームステイプログラムの間に、この次はラオスで宮城県の子ども達のホームステイを行いたいとの申し出を頂いた。これを今回の事業成果としたい。

地球の子ども通信（ＣＣＥ）
会　長　　芳　賀　節　子

第４４回地球の子ども通信国際交流事業「ラオスの子ども達による仙台ホームステイプログラム」

実　　施　　要　　項

地球の子ども通信（ＣＣＥ）

１．主　旨

地球の子ども通信は、この地球上にたくさんの友達を作り、枠どりのない子どもの目線で捉えた国際交流を深めることを目的とし 1992 年に発足。1993 年よりアジアの国々の子ども達との招聘、派遣ホームステイ交流事業を行ってきた。これらの継続的な国際交流事業は、子ども達が生活を通して異文化を体験し、世界観を拡げながら国際性を育み、又、次代を担う子ども達の共通理解の場として重要な役割を果たしてきた。

今回、2006 年から開始したラオスの子ども達との文化相互交流を更に推し進め深めるために、第４４回地球の子ども通信国際交流事業「ラオスの子ども達による仙台ホームステイプログラム」を計画するに至った。

２．目的

次代を担う世界中の子ども達に国際親善の輪を拡げ、子どもレベルでの友情交流と文化相互理解を深める。

３．方法

これまで継続して交流を育んできたラオスの小学生、中学生を対象とし、宮城県、仙台市でのホームステイを通し、日本の生活体験をする。

４．内容

①ホームステイ対象

＜ラオス＞　ラオスユースユニオン　小学生、中学生　１０名
　　引率者　　３名

②選考方法

今回のホームステイ体験をすることにより、将来に向け日本とのより良い関係を築くことに寄与できると思われる参加対象者の中から、主催者が適正と認められる者を選考する。

③時期日程

平成２６年２月２８日（金）～３月９日（日）（１０日間）

④滞在内容

ホームステイを主にし、日常の市民生活を体験しながら地域に密着した交流を図る。特に、同年代の日本人小中学生を中心に多くの子ども達との友情交流を育む。又、小学校訪問など地域活動を広げ、友好親善をねらいとした継続的な交流が期待できるプログラムとする。

５．経費

原則として、招聘に関する渡航費、渡航手続き費、及び個人的な費用については対象者が負担する。但し、渡航費の一部を、地球の子ども通信が負担する。尚、日本における交流事業費、ホームステイ滞在費については、地球の子ども通信（ＣＣＥ）で負担する。

６．組織

主催　：　地球の子ども通信（Children's Communication on Earth）
後援　：　駐日ラオス人民民主共和国大使館
　　宮城県　　仙台市　　仙台市教育委員会
　　（公財）宮城県国際化協会　（公財）仙台国際交流協会
　　ＮＨＫ仙台放送局　河北新報社　朝日新聞仙台総局　TBC 東北放送
助成　：（公財）未来の東北博覧会記念国際交流基金

地球の子ども通信（ＣＣＥ）事務局／　〒981-3213 仙台市泉区南中山１丁目 24-5　TEL・FAX：022-376-5382

第４４回地球の子ども通信国際交流事業
「ラオスの子ども達による仙台ホームステイプログラム」
１０日間プログラム内容

月　日	内　　容
２月２８日(金)	ラオスの子ども達来仙（ラオスー成田―仙台） ホストファミリーと引き合わせ（仙台市桂市民センター） 18:30　ウェルカムパーティ　（日立システムズホール仙台・交流ホール） 歓迎セレモニー・文化交流会・日本文化体験（琴・尺八）
３月１日(土)	9:30　文化交流会「おりがみワークショップ」＆「茶道体験」 ー日本の子ども達とー緒にー （仙台市桂市民センター） 午後　フリータイム　―ホストファミリーと共にー
３月２日(日)	フリーデー　―ホストファミリーと共にー
３月３日(月)	9:20　日本赤十字東北ブロック血液センター見学 11:00　仙台市立桂小学校訪問 交流会　給食体験（４年生のクラス） 2;00　宮城県知事表敬訪問
３月４日(火)	9:30　仙台市松森ごみ焼却場見学（環境問題とごみ分別について学ぶ） 11:10　被災地松島訪問 勉強会（松島水族館） 水族館見学・遊覧船にて島巡り・足湯体験
３月５日(水)	午前　山形蔵王へ 日本文化体験（着物体験） （山形蔵王ドッコ沼泊）
３月６日(木)	雪・スキー体験 日本文化体験（こけし作り） （山形蔵王ドッコ沼泊）
３月７日(金)	11:30　仙台に戻る　泉中央解散 18:30　フェアウェルパーティ　（イズミティ２１・展示室） ーホストファミリーとパフォーマンスー
３月８日(土)	フリータイム 22:50　ラオスの子ども達帰国（夜行バス）　（仙台―成田） ―ホストファミリー見送りー
３月９日(日)	ラオスの子ども達出国（成田―ラオス）

松 島 海 岸 に て

“海風に吹かれて” ラオスの子ども達

10日間ホームステイプログラムレポート

宮城県知事表敬訪問

ラオ･ユースユニオンから国際経済･交流課
山﨑課長に記念品贈呈

県議会中の忙しい時期だったが、ラオスの子ども達の表敬訪問を受入れて頂き、経済商工観光部国際経済・交流課課長山﨑敏幸氏にお目にかかることが出来た。
山崎氏は、他の国に行って自分の国を外から見ることはとても大切なことで、そのことが大人になることですと話された。そして、帰国したら交流した日本の子ども達にメッセージを送り交流を続けて欲しい、又、震災復興に向けて一生懸命頑張っている宮城県の今の姿を、是非ラオスの人々に伝えて欲しいとラオスの子ども達に伝えた。
次に、ＣＣＥ芳賀会長が“将来を担う子ども達にとって、表敬訪問は大変貴重な機会です”と受入れて頂いたことへの感謝の意を述べた。続いて、ラオ・ユースユニオン代表スリヴォン氏が“表敬訪問させて頂くことを大変光栄に思っています。宮城県はとても美しい所だと感じています。ラオスと日本の子ども達の友情が将来末永く続くことを希望しています”と挨拶。その後、ラオスの子ども達から質問が出された。最後に記念品贈呈があり、山﨑課長から“むすび丸”のバッチが手渡され、ラオスの子ども達はとても喜んでいた。終始和やかな雰囲気で行われた素晴らしい訪問の機会となった。

山﨑課長と一緒に記念撮影

県庁 18 階展示室を見学

ウエルカムパーティ

ウエルカムパーティ挨拶より

本日ここに、地球の子ども通信第 44 回国際交流事業「ラオスの子ども達の仙台 10 日間ホームステイプログラム」を皆様と共に開催できますことを、大変感謝申し上げます。
Mr スリボォン、Mr ステチャック、Miss ブンタボォン、そして、小・中学生の皆さん、ようこそ仙台へいらっしゃいました。今年は例年になく雪が多い宮城県仙台市です。とても寒いと感じていることでしょう。私は 2012 年にラオスを訪れました。水の豊かな深い伝統文化につつまれた暑い国の印象を持ちました。

さて、地球の子ども通信はこの地球上にたくさんの友達をつくることを目的として 1992 年に設立し、ラオスの子ども達との交流は、2006 年から始まりました。これまでのラオスとの交流事業の中で、特に印象に残っておりますことは、2011 年 3 月 11 日に起きました東日本大震災の年に、地球の子ども通信設立 20 周年記念事業として行われた「第二回地球の子ども通信国際子ども会議が行われたときのことです。当初多くの国の子ども達の参加が予定されておりましたが、震災の影響を懸念して、出席を見合わせた国々もありました。そんな中で、私共の“仙台は大丈夫”という言葉を信頼してやって来て下さったのが、ラオスの子ども達と引率の方々でした。津波で多くの人々の命が失われ、悲しみでいっぱいだった私達の心に、勇気を与えて下さったのです。今回、ここに継続交流としてこのプログラムが行われますこと大変うれしく思っております。

私達は、子ども達の友情交流が未来につながり、共にこの地球上で生きるかけがいのない力になることを信じています。その思いに、国を越えた多くの人々が地球の子ども通信の事業を支えて下さり 22 年が経ちました。ホームステイプログラムの 10 日間は、長いようで短いです。様々な体験を通し、異文化発見だけではなく共通発見もしてみて下さい。新しい価値観が生まれてくると思います。そして、人々が平和で豊かに生きるために世界をつくる芽に、つなげていって欲しいと願っています。

最後になりましたが、本日ここに、宮城県国際化協会理事長伊藤直司様のご臨席を賜わり、ウエルカムパーティを開催できますことを心より誇りに存じます。常日頃、私達の交流事業に際し、ご指導ご支援を賜わっておりますことを、改めて感謝申し上げます。
そして、この交流事業の縁の下の力持ちでありますホストファミリーの皆様、ラオスの子ども達を、10 日間我が子同様に家族の一員として迎えて下さい。
ご挨拶と致します。ありがとうございました。

地球の子ども通信（CCE）
会 長　　芳 賀 節 子

公益財団法人宮城県国際化協会理事長ご挨拶

第 44 回地球の子ども通信国際交流事業「ラオスの子どもたちによる仙台ホームステイプログラム」の実施に当たりまして、一言、歓迎の言葉を述べさせていただきます。

ラオスからのみなさん、ようこそ宮城県にお越しくださいました。みなさんは、毎日 30 度を超えるような熱い国から突然真冬の日本に降り立ったわけですが、体調は大丈夫ですか。成田から仙台までの車中から見た景色には、どんな印象を持たれましたか？

さて、今から３年前。ここ宮城県を含めた東日本の広い範囲で１，０００年に一度という大きな地震、そして巨大津波が発生し、海辺の町ではたくさんの尊い命が失われました。被災地は、未だ復興の途上にあり、失われた町の再生にはまだまだ時間がかかりそうです。でも、私たちはいつの日か必ず復興できるよう、毎日毎日諦めずに努力を続けているところです。今回の滞在では、こんな被災地の様子もしっかり記憶にとどめ、帰国後はご家族や学校のお友達に見たままを伝えていただきたいと思います。

大自然は、ときには大きな災害をもたらしますが、その偉大さは変わらず、宮城の海は前にも増して美しく豊かに回復しつつあります。また、今年はいつもの年よりもたくさん雪が降りました。これからの 10 日間、みなさんの国にはない「海」の美しさ、「雪遊び」の楽しさを存分に味わってください。そして、たくさんの人たちと出会いのなかから、未来に繋がる大切な友達を見つけてください。

地球の子ども通信の芳賀会長様はじめ会員の皆様。
未来ある子どもたちを主役に据えた貴会の長きに亘る国際交流活動は、本県のみならず全国的にも非常に稀な貴重な活動であり、当協会としても畏敬の念を禁じ得ません。
このたびのプログラムも意義ある成果を残し恙なく遂行されますことをご祈念申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

公益財団法人 宮城県国際化協会
理 事 長　　伊　藤　直　司

参加者全員で記念撮影

ラオスの子ども達 10 名と引率者 3 名は、成田到着後新幹線にて仙台へ。昼食後、仙台市桂市民センターでホストファミリーと対面。ラオスの子ども達は、「こんにちは」「はじめまして」と日本語で自己紹介をする。ホストファミリーの自己紹介では、ラオス語で挨拶する家族も。又、インフルエンザが流行っている時期だったのでホストファミリーで医師の芦立さんに、手洗いやうがいをして予防するようラオスの子ども達に話してもらう。

ラオ･ユースユニオン代表
チャンタポン スリヴォンさんの挨拶

18:30 から日立システムズホール仙台・交流ホールにてウエルカムパーティが行われた。参加者は、ホストファミリー、CCE 関係者など約 60 名。

オープニングの琴演奏の後は歓迎セレモニー。CCE 芳賀会長の挨拶後、CCE 子ども代表の今野莞治君（中学 1 年）が英語で歓迎スピーチをする。次に、ご臨席賜った（公財）宮城県国際化協会理事長伊藤直司様よりご挨拶を頂戴する。その後、ラオ・ユースユニオンを代表してチャンタポン スリヴォンさんが、CCE ホームステイプログラムの参加への感謝と、今後も末永くこの交流事業が続くことを願っていると挨拶した。そして、CCE 芳賀会長からラオスの子ども達とホストファミリーに記念品のお雛様が手渡された。ディナーパーティ後は、文化交流会。琴体験ワークショップ、ラオスと日本の子ども達による民族ダンス紹介が行われ、異文化を知る有意義な機会となった。

ウエルカムスピーチをした
今野莞治君

＜今野莞治君のウエルカムスピーチより＞

ラオスの皆さんこんばんは。ようこそ仙台へいらっしゃいました。私達は皆さんがいらっしゃるのを楽しみにしていました。この 10 日間のプログラムでは被災地への訪問やスキー体験などがあります。日本についてたくさん学んで楽しんで下さい。僕は積極的に話をして、ラオスの子ども達と仲良くなりたいと思います。皆さん、よろしくお願いします。

松島水族館の川村さんによる
乾杯の音頭

Welcome Party & Cultural Exchange

[Program]

18:30 Ⅰ.**オープニング** **日本文化紹介　琴演奏**
Opening **Introduction of Japanese culture (Koto playing)**

六段の調　ひなまつり　ディズニーメドレー　他

演奏／琴：　芳賀喜恵邦　鈴木喜千恵　佐藤佳澄　小倉由也
Player/ Koto:　Kieho Haga　Kichie Suzuki　Kasumi Sato　Yuuya Ogura
尺八：　大友憧山
Syakuhachi　Dozan Otomo

19:30 Ⅱ.**ウェルカムセレモニー**
Welcome Ceremony

・会長あいさつ
Greetings of President of CCE
地球の子ども通信会長　芳賀節子
President of CCE　Mrs. Setsuko Haga

・CCE子ども代表歓迎のあいさつ
Welcome speech by CCE student
仙台市立向陽台中学校1年　今野莞治
Sendai Municipal Koyodai Junior Haigh School 1　Kanji Konno

・来賓あいさつ
Greetings of guests
公益財団法人宮城県国際化協会理事長　伊藤直司様
Miyagi International Association (Foundation)　Mr. Naoshi Ito

・ラオス代表者あいさつ
Greetings of representatives of Laos
ラオ ユースユニオン　チャンタポン スリヴォン 様
Lao Youth Union　Mr. Chanthaphone Soulivong

・記念品贈呈

・参加者とホストファミリー紹介
Introduction of participating students and host families

・日本の子ども達によるダンス「しのびのごくい」
Dance by Japanese children「Shinobinogokui」

19:00 Ⅲ. **ディナーパーティ**
Dinner Party
乾杯
Toast

19:30 Ⅳ. **琴ワークショップ**
Koto warkshop

20:20 Ⅳ. **子ども達による文化交流**
Cultural exchange by students
・ラオス
Laos
・日本
Japan

20:40 閉会
End of party

琴・尺八演奏　＆　体験ワークショップ

芳賀邦子さんのグループによる琴・尺八演奏と体験ワークショップが行われた。「六段の調べ」など伝統的な曲目に加え、尺八奏者の大友憧山氏による独奏は「名探偵コナン」や「となりのトトロ」のテーマ曲など。日本の伝統楽器と現代音楽との融合は、とても素晴らしかった。

琴の弾き方、尺八の吹き方を教えてもらう。尺八は音を出すことが難しく、ラオスの子ども達は何度もチャレンジしていた。大友氏より手作りの尺八を頂き、ラオスの子ども達はとても喜んでいた。

手裏剣が飛びかった幼児による忍者ダンス

ラオスの子ども達による民族ダンス

日本の子ども達によるすずめ踊り

おりがみワークショップ

オリガミ・タロー氏創作の“馬”

おりがみワークショップを仙台市桂市民センターにて行う。講師は、ＣＣＥ東京支部長でもありフラメンコギター奏者でもある創作折紙師のオリガミ・タローこと山本元康氏。

今回のテーマは「ヘビ」と「手裏剣」。一枚の折紙が立体的に変化していく日本の折紙文化、加えて山本氏の独創性が作品をより素晴らしくラオスの子ども達、ホストファミリーの興味を引いた。出来上がった作品は、ラオスへのおみやげとなった。皆の顔は真剣そのものだった。

ホストファミリーと一緒に

茶道体験

おりがみワークショップの後、茶道体験を行う。講師は橋本潤子さん。お茶道具の紹介をし、一人ずつ抹茶を頂く。皆、慎重に口に運び飲んだ後は苦さにビックリしたり、おいしいと全部飲んだりとリアクションは様々だったが、日本文化の一端を知る機会となった。

正座をするのも大変だった茶道

体験初めて飲んだ苦いお茶！

学校訪問　- 仙台市立桂小学校 -

ラオユースユニオンのスリヴォン氏から
飯塚校長先生に記念品贈呈

仙台市立桂小学校を訪問。学年度末で学校の忙しい時期だったが、ラオスの子ども達の訪問を受け入れて下さり、4年生全員（2クラス）との交流会と給食体験が行われた。
交流会では、4年生代表による歓迎の言葉、飯塚校長先生の挨拶の後、桂小の子ども達が合唱と“秋田音頭”を紹介。ラオスの子ども達は日本語で自己紹介をし、民族ダンスを披露した。又、この日は3月3日の“ひな祭り”で、桂小の子ども達がひな祭りの由来をペープサートで紹介してくれたり、折紙でお内裏様とお雛様を折ったりなど、日本の伝統文化を伝える機会となった。短い時間だったが、言葉を越えて友達になれた貴重な交流体験となった。

桂小の子ども達による“秋田音頭”

ラオスの子ども達による民族ダンス

折紙で“お雛様”作り

給食体験　メニューは“ちらし寿し”

お雛様のまわりで記念撮影

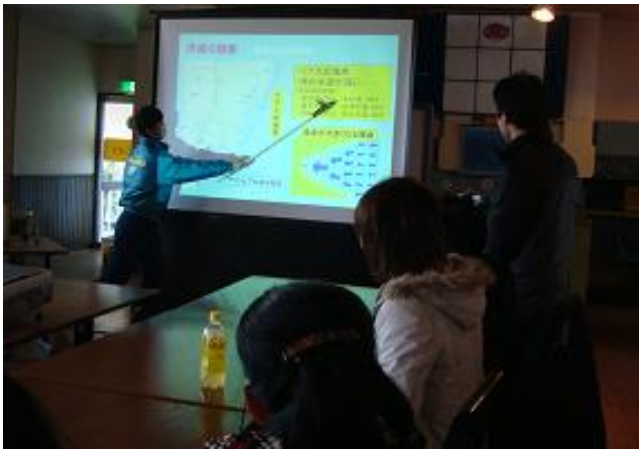
別れを惜しむ両国の子ども達

日本赤十字社東北ブロック血液センター見学

日本赤十字社東北ブロック血液センターを見学。始めに赤十字社の役割や、東日本大震災後の活動の様子などをDVD映像を交えて説明を受ける。
ラオスの子ども達は積極的に質問をする。“人々のためだけではなく、動物や環境へのサポートはしないの？”“日本の赤十字社がなぜアフリカなど遠い所の援助もするの？”など。後者の質問には“世界中に援助している。血液の検査などの様々な技術を持っていない国には技術提供をしている。”と案内役の佐々木さんが答えた。

続いて見学コースを案内してもらう。血液について赤血球、白血球、血小板の役割など学ぶ。又、献血で集まった血液を検査し保存する作業を見学することができた。大震災後にはラオス赤十字社も日本で支援活動をした話を聞く。又、ラオスにも赤十字社があり、佐々木さんは以前ラオスを訪れたことがあるそうで、その際の写真を子ども達に見せてくれ、子ども達はとても喜んでいた。ラオスの子ども達はとても熱心に見学していた。

被災地松島訪問　勉強会（松島水族館にて）



松島水族館にて勉強会を行う。講師は水族館の職員の大谷さん。3.11 東日本大震災被災状況や松島の地形と津波の関係を、写真映像を交えて話を聞いた。

松島湾入口付近の津波の高さ６～８ｍに対し、湾内は３ｍ。湾の入口が狭く奥に向かって拡がっている地形であること、大小約 260 の島々があること、湾内の水深が３～４メートルと浅いという松島の特徴が、津波の力を減少させ、他の沿岸部に比べ被害が少なかったと説明を受ける。

又、津波が水族館の正面入口の天井近くまできたことや、波が引いてから泥を取り除く作業が大変だったこと、生き物も餌を節約して少しずつ我慢をしながら過ごしたこと、５９種２１２点の生き物が死んでしまったことなど伺った。その中で、ペンギンの赤ちゃんが誕生し、このうれしいニュースが希望の光となり、従業員の頑張りにつながったと大谷さんは語った。そして国内外の多くの支援もあり、4 月 23 日には再オープンできたということだった。

大震災から 3 年が経ち、沿岸地域以外の県内の様子からは震災被害の大きさがあまり感じられないが、実際に被災地を訪れ、被害状況や復興の様子などをラオスの子ども達に知ってもらう貴重な機会となった。勉強会後には、生き物の種類も数も震災前にほぼ戻ったという水族館を見学。ラオスには水族館が無いそうで、初めての水族館にラオスの子ども達は大喜びだった。

水族館オーナーの計らいで焼きガキを頂く。松島産の新鮮なカキの味は格別で、「おいしい！」とたくさん食べた。

楽しかったカモメの餌付け

足湯を体験。ラオスの子ども達は足湯がとても気に入った様子で、もっと入っていたいと言っていた。

仙台市松森工場ごみ処理施設見学

研修室で松森工場についての説明を受けた後施設内を見学する。ゴミクレーンがゴミを焼却炉に運ぶ様子などを実際に見ながら、収集されたごみの処理方法やごみの分別、リサイクルについて学んだ。ラオスの子ども達は見る物すべてに興味津々で、「あれは何？」「何をするもの？」と質問していた。又、煙突から出ている白い煙にはダイオキシンが含まれていないなど、環境に配慮した日本のゴミ処理技術の高さにとても驚いていた。

熱心に見学するラオスの子ども達

大人気だったゴミを食べるロボット

蔵王小旅行　雪・スキー体験　日本文化体験

２泊３日で山形蔵王ドッコ沼へ。
雪を見るのも初めてのラオスの子ども達。荒れ模様の天候の中、吹雪すらも楽しむかのようにスキー、ソリすべり、雪だるま作りに喜々として興じていた。

着物の美しさに魅了されていた
ラオスの子ども達

男の子達も着物に興味があり
浴衣を着こんでご満悦

個性溢れるこけしの
出来上がり

フェアウエルパーティ

芳賀会長へラオ ユースユニオンから記念品贈呈

３月７日（金）18:30 よりイズミティ２１展示室にてフェアウエルパーティを行う。参加者は、ホストファミリーとＣＣＥ関係者約５０名。

ＣＣＥ芳賀会長、ラオ ユースユニオン代表のスリヴォンさんの挨拶の後、恒例のホストファミリーとのパフォーマンスが繰り広げられる。すずめ踊り、手品、ひげダンス、うた、ラオスの民族ダンスなど、どの家族もとても楽しそうだった。１０日間一緒に過ごして育まれた信頼関係を感じるひと時だった。

フェアウエルスピーチをした
今野果澄さん（小学５年）

ホストファミリーとゲストと
皆で踊ったラオスの民族ダンス

一緒に踊った“すずめ踊り”

The 44th CCE International Exchange project

"Sendai home-stay programme by the students of Laos 2014"

Name: Mr Phonepadid vilayvong	Age: 13 years old

Remarks on the home-stay program:

I was very fortunate to be able to join CCE program in Japan for 10 days from February 28th to March 10th. The day I arrived Sendai, I was warmly welcomed by the president of CCE program, Ms. Setsuko Haga. Later on, there was a homestay matching program and I was very lucky to stay with Ashidate Family. They cooked very nice Japanese food for me everyday.

On March 2nd, 2014, My host family accompanied me to many interesting places, such as the Ice-skating hall, Strawberries garden, sport venue to play Table tennis, Badminton, Soccer, and to visit many sacred places and temple. I was very impressed by the kindness of my host family in a way that they took very good care of me in many things, such as washing my clothes, preparing hot water for me to bathe, providing me towel, toothbrush, and other necessary things. They also prepared a very nice and warm bedroom for me during my stay in their house. Although the language could be a barrier for me and my host family at the beginning, I was very surprise to see my host family prepared both the Japanese-Lao dictionary and digital dictionary to facilitate the conversation.

As for CCE program, I have learned so many things on various activities. For instance, I have learned how important the blood donation to help people in need and the role of Japanese Red Cross in various cases, such as natural disasters, accidents, and so on. The school visit was another highlight for me. I was very impressed by the way the teachers and students at Katsura Primary School greeted and warm welcomed me to their school. I was also very proud to be able to show traditional Lao dance to Japanese students and to be able to learn how to do a Japanese Origami. I also had a chance to visit Matsumori Waste Incineration Center where I could learn how they manage and treat their garbage. The thing that surprised me a lot is a way they burn their garbage without polluting the air and at the same time, they can also generate electricity from the incinerator. On the other day, I visited Matsushima where I could learn about how Tsunami affected this area and the Matsushima aquarium. I saw many wild animals in the aquarium that I have never seen before.

The CCE program is truly a very special program that open up myself to have friends in Japan and to help me to adapt into a new environment and to be more brave. Everyday in CCE program is very special to me. I have learned so many things that I could not learn from a textbook. I promise to always keep developing my self to be a good person and to contact my host family from time to time.

If I could give a piece of suggestion to a program, I would like the program to provide a basic information or lecture on how to play skii, for example, how to stop the skii and so on.

Last but not least, I would like to express my sincere thanks and convey my wishes to the CCE program and my host family to gain a bigger success in a future to come. I wish my host family to be in good health, and I hope to see you all again some days in a future. I would like to thank the Lao Youth Union, especially the department of Lao Pioneer, for providing me this life-learning experience. I would like to also thank Lao-Viet school in supporting me to join this program. I hope in the future many Lao students will be able to gain this kind of wonderful experience like I did in CCE program.

☺🕮 Thank you 🕮☺

地球の子ども通信(CCE) Children's Communication on Earth
〒981-3213 仙台市泉区南中山１丁目 24-5 Tel.Fax：022-376-5382
URL：http://www.cce-sendai.jp/